

## 巻 頭 言

ヒューマンサイエンス第26巻を発刊致します。

本誌は院生、教員を問わず「研究をブラッシュアップするための場」として大学院生により自主的に運営されてきたユニークな研究誌です。26年もの長きにわたり、本誌のように領域横断、学際的な研究誌が研究科の支援のもと、学生主導で発行され続けてきたことは、本学で「学問的対話」が恒常的に実現してきたことを示す証左と言えましょう。ヒューマンサイエンスの継続に関わって来られた諸氏への感謝をこの場を借りて、改めて申し上げたいと思います。また、喜ばしいことに、今号からは機関リポジトリ掲載へのスムーズな連携システムも研究科内に構築されました。本誌がますます拓かれたディスカッションの場として展開されていくことを期待しています。

本誌の構成は、博士学位取得者による「博士学位論文の要約」、博士前期課程2年生による「修士論文の要約」、教員や学生による「論文」、研究の骨子やアイデアをまとめた「研究ノート」、現場での研究活動報告「フィールド便り」から成り立っています。特に今年は本学研究科で2名の博士号学位取得者が誕生しました。それを受けて、今号では新たに設定した「博士学位論文の要約」が2編掲載されました。さらに、博士前期課程2年生による「修士論文の要約」9編、博士前期課程、研究生、心理相談室研修生による「研究ノート」21編、今年度着任された西嶋准教授による「論文」1編、博士後期課程3年生による「展望論文」1編、西海准教授、研究生2名および國吉による「フィールド便り」4編と各専門領域からの玉稿が多数投稿されました。ぜひご高覧頂きますと幸いに存じます。

本研究科はご承知のように、「臨床心理学」「人間行動学」「健康科学」「環境科学」と大きく異なる専門分野を擁していますが、研究領域の多様性は本学の「リベラルアーツ」の学びを体現しています。以前からの繰り返しとなりますが、より良い研究実践のためには、自らの専門に留まるだけでなく、他の専門領域にも視野を広げ、自らの研究を他者に伝える努力を行い研究的な視点の転換を図ることが不可欠です。民主主義の基本は「対話」にあります。そして「学問的対話」が成立するには相互の専門性を尊重する「共感性の高い人格」と「研究倫理への意識」が必要です。まさに、高い倫理意識に裏づけられた相互理解への努力無しにクリティカルで創造的なディスカッションを行うことは不可能と申せましょう。本研究科ではこれまで倫理教育にも力を入れてきました。今後、大学改革の推進に伴い、大学院体制も変化していきます。そのような中でも、本誌の“精神”が今後も「学問的対話」を実現する機能の一助として継続されていくこと、そして、意義深い優れた研究が、今後も活発になされていくことを願ってやみません。

國吉 知子

(神戸女学院大学大学院 人間科学研究科 研究科長)